

## にぎわいまち公社では

- まちづくり活動のお手伝いをします  
——まちづくり団体が開催するイベントのサポートなど
- まちづくりに関する調査研究と情報の提供をします  
——まちづくりに関する講演会等の開催、情報誌発行など
- 中心市街地活性化事業に関するお手伝いをします

## 平成15年度の事業

- 商業ベンチャー支援事業
- タウンウォッチングの開催
- まちづくり専門家の派遣・まちづくり相談
- 再開発関係団体等への活動助成
- まちづくり情報誌・パンフレットの発行
- 市営駐車場の管理

## 渡船・遊覧実験結果の報告

平成16年2月7日から29日までの毎週土、日曜日において「観覧船による渡船・遊覧実験」を行いました。初日は前日からの雪により雪景色の金華山を川面から眺めることができました。その後、マスコミ報道の影響もあり市内のみならず、愛知県や三重県



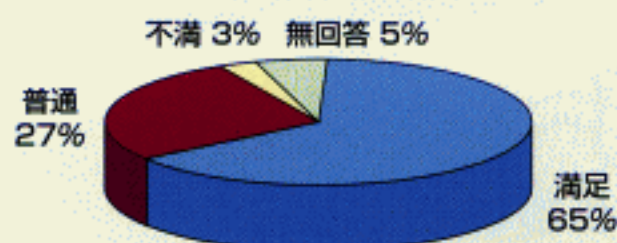
など他県からの参加もあり、毎回満席の約800人の方にご乗船いただきました。

また、乗船者を対象にしたアンケートでは6割以上の方が満足

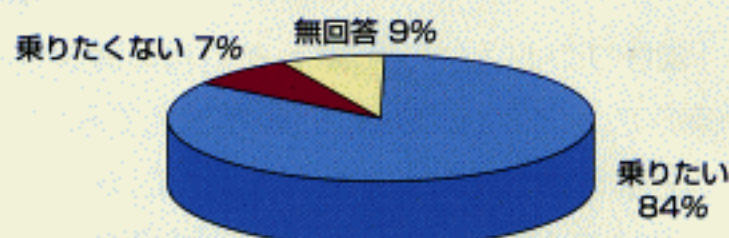
し、8割以上の方が再度乗ってみたいとのご回答をいただきました。今後における観覧船の有効活用方法、また新たな観光資源としての可能性を検討していく上で参考となる

実験となりました。なお、今回の実験では予想以上の参加希望者が殺到したことで、乗船していただけなかった方が多数ありました。心からお詫び申し上げます。

### 船に乗った満足度



### 再度乗りたいか



## まちづくり市民グループの紹介コーナー

### ● 第3回「Gネット」 代表 秋元 祥治

#### ■ 設立と現在の活動

「思いを言葉に、言葉を行動に」をミッションに、平成13年10月に立ち上げました。大学生、高校生、若い社会人を中心に輪が広がり、平成15年5月にはNPO法人格を取得。「自分たちの街がこうなっていけば面白いよね」と思ったことを、実際に行動にしていき、これまでに1万人規模の夏の野外ライブイベント「BeansFesta」、冬のカウントダウンイベント「GIFT」、2万部の季刊フリーペーパー「ORGAN」の創刊、政策提言活動「GNp」を展開。思いを言葉にし、言葉を行動に変えていく起業家的創造的な人材を育成して、それが、街の活力につながるという理念のもと、人づくりに特化した活動をしています。現在、スタッフが50人ほどいて、毎日、楽しい仕掛けを考えています。

#### ■ インターンシップのコーディネート

私たちG-netは、この春から新たに「インターンシップのコーディネート事業」を始めます。人づくりに根ざした

まちづくりを提案するG-netにとって、もっとも核となる事業です。就職前の学生やフリーターを対象に、実際に「働く」ということを通して、働くことの喜び、本当に自分は何がしたいか、夢は何かといったことを考え、行動する具体的チャンスを提供します。学校では教わらない、実社会で体験してわかる、本当に生きた勉強ができます。また、G-netは、岐阜だからできる地域密着型のインターンを目指します。既存の大企業ではない、商店街や地元の中小企業、農業や林業、デザイナーさんのもとへのインターンシップを通し、この「岐阜」で働くことの意味、岐阜への愛着心を持つことができます。

#### ■ 一緒に始めましょう

G-netに興味がある方、実際に一緒に関わっていきましょう。それぞれなりにできることを出しあっていきたい。ただ思っているだけでは始まらない。ご連絡をお待ちしております。

郵便番号：500-8875

住 所：岐阜市柳ヶ瀬通2-1ベルビル2F NPO法人G-net事務局

電話番号：058-263-2162

電子メール：info@gifist.net

ホームページ：http://www.gifist.net

## 川原町みち空間再生実験について

旧岐阜町として歴史的な町並みを残す岐阜市玉井町付近(通称川原町)において、地区のまちづくりの課題の一つでもある交通問題として、みち空間再生実験を行いました。実験では「ゆっくり走ろう川原町」をスローガンに、道路上にベンチや和傘など町並みに調和した障害物を置いて物理的に車両速度の低減を図ったり、地区住民と共同でチラシの配布や看板等により徐行を呼びかけました。



実験風景

今後、地区が抱える交通問題への解決の糸口になれば幸いです。

## 空き店舗対策事業への試み

空き店舗対策事業では、中心市街地商店街(柳ヶ瀬地区)の空き店舗対策として、新たな独立開業者を定着させることにより、空き店舗の減少、にぎわい・回遊性の回復などを狙いとして、昨年8月に柳ヶ瀬チャレンジショップをオープンして運営してきました。



この事業の取り組みにより、2店舗が柳ヶ瀬で開業の準備を進めています。また5店舗が近い将来中心市街地にて独立を目指して計画を練っており、まちづくりの支援の一つとして一定の成果が見られました。

しかし、今後の問題として①商店街との連携 ②顧客の集客方法 ③商品開発など、新たな課題も浮かび上がり、今後の中心市街地活性化に向けて地元商店街と協力し、積極的な支援が必要と考えられます。

### まちづくり センター情報

3月16日(火) ワーク:空き店舗活用研究会

3月19日(金) サロン:まちづくり団体交流会

3月17日(水) サロン:おしゃべりサロン

3月23日(火) サロン:子育て支援を考える

3月18日(木) サロン:市民と行政の役割分担

3月23日(火) サロン:岐阜市の総合計画

## ～投稿～

### 「まちづくりの現状と 将来についての考察」

廣瀬康之

「まちづくり」という言葉は、それ自体曖昧性を有しているため、その定義と範囲について考えてみたい。全国的に小さな町や商店街にみられるように、かつては栄えていて現状ではすたれてしまった地域を再活性化させるケースや、地域における新たな材料(歴史的、文化的、自然的あるいは偶発的)により「まちおこし」「むらおこし」を行うケースがある。

また「まちづくり」という言葉がよく使われるようになってから10年から15年くらいしか経過しておらず、実は「まちづくり」の定義がまだ確立されていないように感じられる。「まちづくり」は、まだ新しい研究分野であり、今後、様々な研究がなされていくであろう。

関連しそうな分野を挙げてみると、歴史、文化、芸術、教育、医療、福祉、土木、建築、情報、電気、交通、通信、環境、防災、防犯、経済、経営、バリアフリー、国際交流、国際協力など枚挙にいとまがない。すなわち人々が生活するために

必要なもの、その基盤としての街というものを考えるならば、関連しない分野はほとんど無いことになる。また外国人が住みやすい街というものも、ほとんど研究されていないように思われる。

今後、「まちづくり」は、住民参加型の社会、省資源や省エネルギー、都市間地域間競争と地方自治、そして福祉やバリアフリー、外国人が住んでも居心地がよい街といった視点も不可欠であろう。そのために、地域と行政との関係から、住民が自主的に参加できる様々な団体の活性化が必要であろう。そのような動きの中から誕生したのが、1999年、成立した特定非営利活動法(いわゆるNPO法)である。さらに団体相互のネットワークの構築や情報交流なども必要なことである。

21世紀に入り、ますます高齢化、少子化が進行し、生涯学習が活発となっていくことが予想され、また資源や環境に配慮していく市民生活の中、今後の「まちづくり」も新しい展開を迎えるであろう。このように「まちづくり」の形は、様々な展開していくことであろうが、人々がコミュニティで生活していく限り、その理念は普遍的であると考えられる。

## 事務局だより

● 観覧船実験も好評の内に終わり、また、同時に行われた川原町の交通量調査も順調に終了し、あとは分析を残すのみ

となりました。

● 4月に入れば、新規事業に着手すると同時に、前年度事業の出納閉鎖が重なり、猫の手も借りたいほどに…。

● 柳ヶ瀬チャレンジショップの来年度募集も済み、6店舗のチャレンジャーが5月1日(予定)から新たに挑戦します。ご期待ください。